

震災記念公園専門部会からの報告内容

- 各校区拠点の整備について
 - ✓ 震災記念公園基本構想よりおさらい P1～P5
 - ✓ 今後の取組方針 P6～P7
- 中心拠点整備に係る進捗状況について P8

校区拠点の整備について

震災記念公園基本構想よりおさらい

- ◆ 平成29年度に策定した震災記念公園（仮称）基本構想において震災記念公園（仮称）の整備目的として、以下の4つを掲げました。

①「いのちの記憶」の継承

- 「**亡くなられた方の存在を、追悼の想いと共に記憶すること**」を、震災記念公園（仮称）の第一の目的とします。
（「記憶の継承」基本方針における位置づけより）

②防災教育を行う「場」

- 震災で亡くなられた方の存在を記憶することは、防災教育の目的でもある**「災害から自らの身を守る」ということを強く認識すること**につながります。
- 防災教育を行う場一つとして、震災記念公園（仮称）を活用します。

③まちの公園

- **日常的に住民が集い周囲とのコミュニケーションを図り、コミュニティを維持する**という、いわゆる公園としての役割も担います。
- 震災記念公園（仮称）では、特に、**復興に向けて培われた周囲との絆やコミュニティ**を維持していく場としての役割を果たしていきます。

④震災遺構の最大活用

- **震災遺構（震災により被害を受けた物件）の価値を活用**するために、震災遺構の残る地域を震災記念公園として位置づけたり、周囲の震災遺構へ中継するための拠点としての機能を備えた公園を整備していきます。

校区拠点の整備について

震災記念公園基本構想よりおさらい

- ◆ また、同基本構想において震災記念公園（仮称）は以下のようなものとして位置づけ、取り組んでいくこととしました。

日常の暮らしを支える公園
+ 震災の記憶

- 子供がいつも遊んでいる高齢者が集まっている…など、「地域の人が日常的に来る場所」に震災の記憶が存在する。

「一つの大きな公園」ではなく
「ネットワーク型の公園」

- 「町」としての中心拠点公園と、「校区」ごとの校区拠点公園を設置し、それをネットワーク化する。

+

各校区の資源/施設を
最大限活用

- 各校区の拠点公園については、各校区に既に存在する施設（公園など）や資源（歴史など）を活用しながら整備する。

各校区拠点公園では
「校区らしい」活動を展開

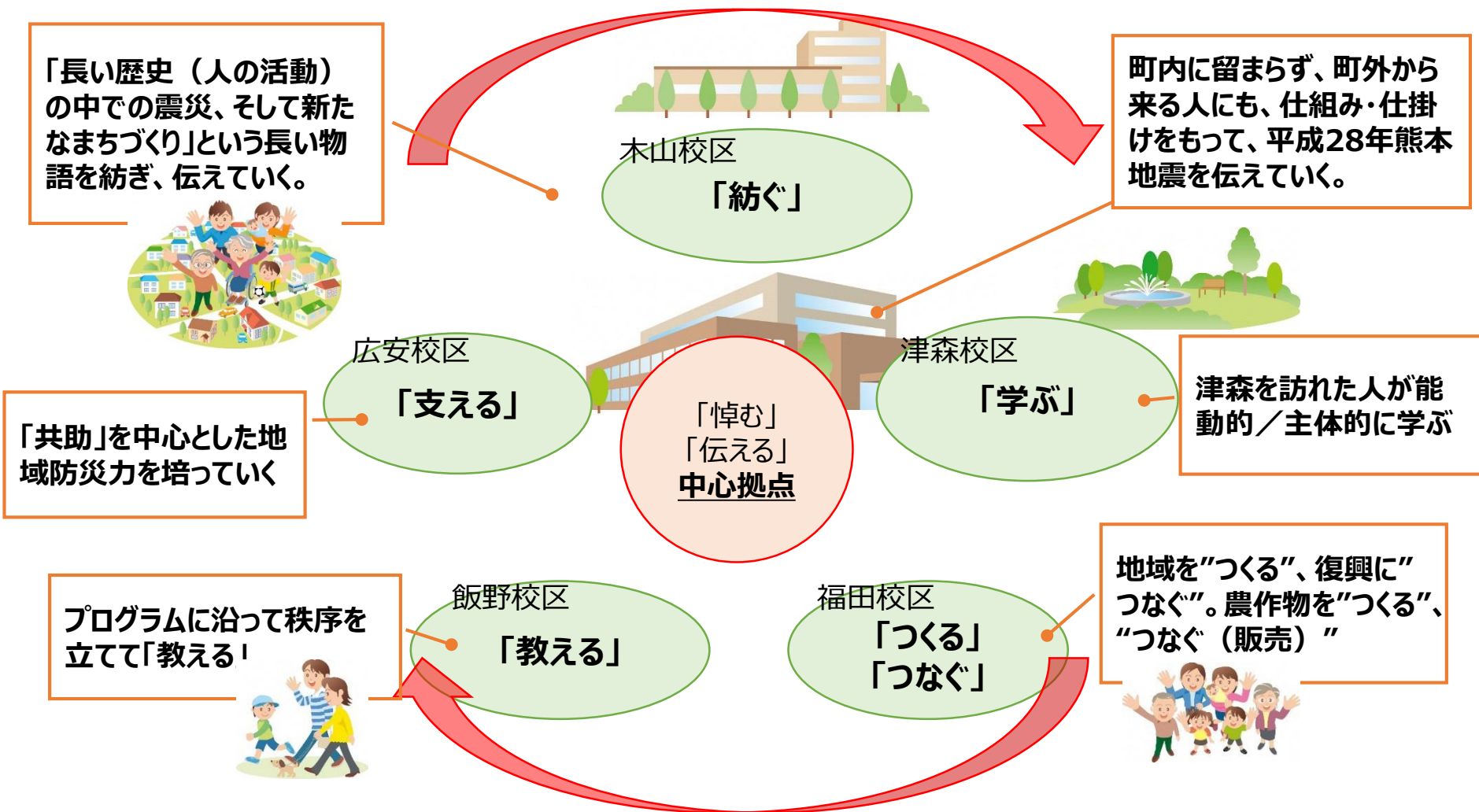
- 各校区の拠点公園については、各校区の特徴を活かし、各校区らしい活動を実施できるように、場所や機能を検討する。

各校区の皆さんにとっての
「自分たちの」公園

- 各校区の拠点公園については、各校区の皆さんが、整備、運営、活用の中心となれるよう考慮する。

震災記念公園基本構想よりおさらい

◆ ネットワーク概念図



校区拠点の整備について

震災記念公園基本構想よりおさらい

校区拠点は住民の皆さんが日常的に訪れる場所であり、各校区の住民の皆さんが整備、運営、活用の中心となる場であることから、校区にお住まいの住民の皆様からご意見をお伺いしてきました。

各校区拠点の特徴を動詞で表現し、事務局で校区拠点のイメージづくり

5校区での座談会（1巡目）を開催

座談会（1巡目）での意見を踏まえて、事務局で校区拠点のイメージの見直し
（イメージマップの作成）

イメージマップを基に5校区での座談会（2巡目）を開催

座談会での意見を踏まえたイメージマップの更新

下記2点を中心にご意見を伺いました。

- 校区で、より活かしていきたい場所・資源（校区の特徴を示す場所・資源、「公園」として活用できそうな資源）
- 校区拠点公園の特徴（「公園での活動」のイメージ、他校区と比較した校区の特徴）

座談会で伺った意見を、よりわかりやすい形で表現するために、熊本大学学生の協力を得ながら、イメージマップを作成しました。

イメージマップの内容をより充実させるため、**地域の歴史や文化、地理的特徴等を含め**自由にご意見をいただきました。

震災記念公園基本構想よりおさらい

- ◆ 2度の校区座談会で得られた意見を図に落とし込み、イメージマップとして取りまとめました。座談会では地域の神社仏閣や地域のお祭り、偉人、自然環境（湧水、山等）などの校区に根付く記憶についても多く意見をいただいたことから「平成28年熊本地震の記憶の継承」に関する取組をきっかけとして、**校区住民が自ら「校区の記憶」まで含めて学び、校区のまちづくりに活用して欲しい、という想いをこめ、校区ごとのイメージマップに描かれる空間や活動の総体を、「ふるさとキャンパスマップ」と称することとしました。**

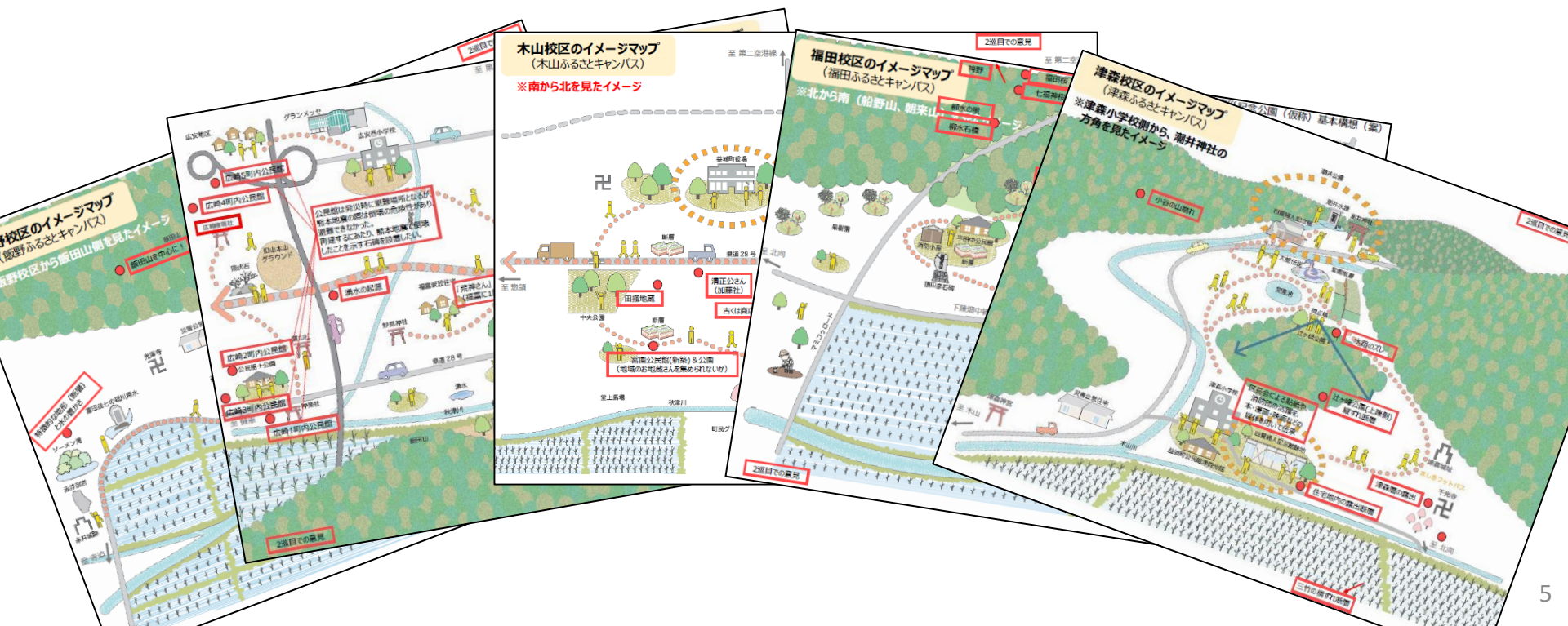
「平成28年熊本地震の記憶の継承」

+

「校区の記憶の学び・継承」

=

ふるさとキャンパスマップ



今後の取組方針

しかし、「ふるさとキャンスマップ」には「平成28年熊本地震」には直接関連のない情報も含まれており、見る人にとって作成者として何を伝えたいのか不明確になってしまいます。そこで、

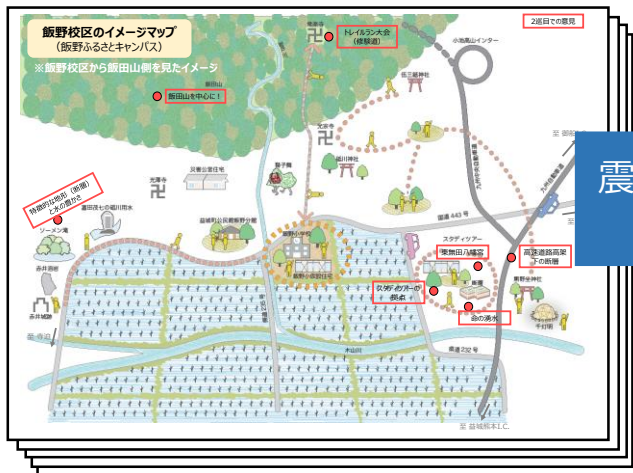
平成28年熊本地震の記憶を後世に伝えることで、災害に対する備えに取り組むという「記憶の継承」基本方針の目的に立ち返り、
「平成28年熊本地震を（世代的に・地理的に）経験していない人が、熊本地震を知れる場（震災エコミュージアム）を整理する」ということに、まずしっかりと取り組みたい、と考えます。

一方で地域の財産を
継承していくことも必要

地域の方が大事にしている“財産”を蓄積・見える化する「ふるさとキャンスマップ」は**益城町の今後のまちづくりの際に参考とされる**べきものです。
また、校区にお住まいになる人（特に子ども）にとって、**地域の文化や歴史、土地の成り立ちや特徴を“蓄積しながら知る”ためのツール**にもなります。

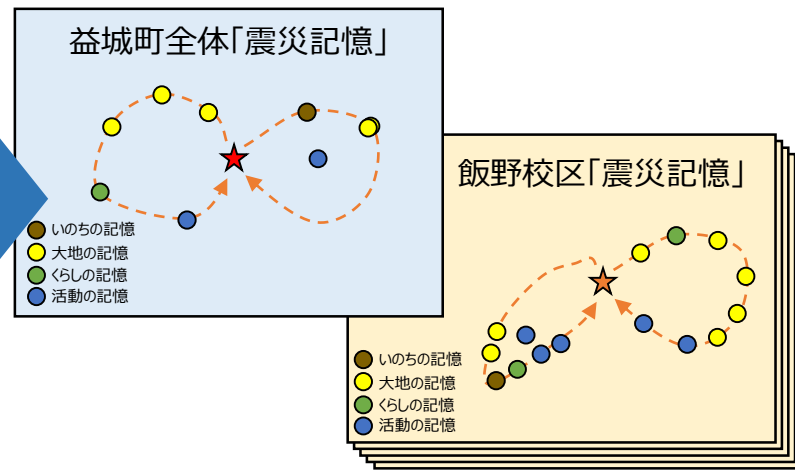
そこで、「ふるさとキャンスマップ」は「平成28年熊本地震記憶の継承」検討推進委員会としてではなく、**益城町役場の他の場面・セクションとして取り組んでいきたい**と考えます。
(ex.地域づくりの場面（企画財政課等）、地域学習の場面（教育委員会等）…など)

「ふるさとキャンパスマップ」



震災の記憶
に特化

「震災エコミュージアム」



※いずれも作成にあたっては、継続的に内容を更新していくことができるよう、益城町に縁のあるデザイナーと協働で作成していくこととしています。

主目的

地域の“財産”の蓄積・見える化

震災の記憶の継承

誰が使う？

- ①地元（校区）の人
- ②地元（校区外）の人

- ①地元の人

- ②視察や観光に訪れる人

どう使う？

地域の皆がアクセスできる場に置いておく

パンフレット・地図のように配布

収録内容

地域の“財産”すべて
(地域の人的大事と思うもの全て)

「震災の記憶」
(「いのち」「大地」「暮らし」「活動」+ α)

整理単位

校区別

町全体+校区別

まとめ方

メンタルマップ

メンタルマップ

作成方法

各校区分館等に掲示して、地域住民の皆さんに自由に意見を出してもらい、定期的に更新していく（無期限）

平成28年熊本地震の記憶の継承というテーマを持って、要素を抽出する。さらに震災の記憶に関する情報を充実させる（これまでの校区座談会や住民へのヒアリング、アンケートなどからストーリーに沿ったものをピックアップして取りまとめる）
→地元の方に「継承していけるか」改めて確認。

中心拠点の整備について

- ✓ 現在、役場新庁舎の設計が進んでおり、H31年度末までに設計が完了する予定です。
- ✓ 役場新庁舎内に展望スペース等を設置することも検討されているが、そういった検討とも絡めながら、「記憶の継承」の場としても活用できるように新庁舎整備部門への申し入れを行っているところ。今後詳細な調整を図っていきます。
- ✓ また、役場新庁舎に隣接して設置される復興まちづくり支援施設や、仮設庁舎跡地付近に整備予定の複合施設も、展示施設という性格を持ち得るため、役場新庁舎内の展示内容の棲み分けについては、今後も継続的な検討が必要です。
- ✓ なお、「いのちの記憶」を継承していく場としては、役場新庁舎敷地内の広場・公園のスペースを中心に検討しているが、様々な条件が関わってくるため、どのような態様がよいか、関係部署とも連携しながら引き続き検討を進めていきます。